

国・地域名

タイ

<p>人口・経済発展状況等</p> <p>〔参考：日本〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人口：1億2,563万人（2020年1月推計値、「人口推移」総務省統計局） ●実質GDP成長率：-4.6%（2020年度、内閣府） ●1人あたりGDP(名目):4万146ドル（2020年4月、IMF） 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口 6,619 万人 ・実質GDP成長率 -6.1 % ・1人あたりのGDP(名目) 7,219 ドル ・為替レート(1バーツ) 3.5 円 ・日本の直接投資額 4,475 百万 ドル ・進出日系企業数 5,856 社 ・在留邦人 8万1,187 人 ・訪日外客数 219,830 人 ・日本食レストラン数 4,094 店 	<ul style="list-style-type: none"> 2020年（推計値）、タイ投資委員会（BOI） 2020年（推計値）、タイ銀行（Bank of Thailand） 2020年（推計値）、タイ投資委員会（BOI） 三菱UFJリサーチ&コンサルティング為替相場 2020年間平均（TTS） 2020年、国際収支ベース、ネット、フロー 2021年3月、「タイ日系企業進出動向調査2020年」ジェトロバンコク調査 外務省「海外在留邦人数調査統計」令和3年版 2020年、日本政府観光局（JNTO） 2020年12月、ジェトロバンコク調査 	<p>市場規模（2020年、ユーロモニター）</p> <p>参考：〔日本〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生鮮食品：108,874.1百万ドル ●加工食品：198,140百万ドル ●アルコール飲料：71,307.1百万ドル ●ソフトドリンク：59,083.7百万ドル ●ホットドリンク：7262.3百万ドル ●健康ウェルネス飲食品(*)：55,403.5百万ドル ●外食フードサービス：158,206百万ドル ●小売・流通業(**)：275,617百万ドル 	<ul style="list-style-type: none"> ・生鮮食品 24,177.7 百万ドル ・加工食品 13,378.0 百万ドル ・アルコール飲料 15,103.4 百万ドル ・ソフトドリンク 8,488.6 百万ドル ・ホットドリンク 1,624.9 百万ドル 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康ウェルネス飲食品 5,714.6 百万ドル (*左記カテゴリーと重複) ・外食フードサービス 22,920.2 百万ドル ・小売・流通業 (**店舗型、食料雑貨店に限る、税抜き) 55,953.7 百万ドル <p>※小売額。ホットドリンクはコーヒー、茶など。</p>
<p>日本からの農林水産物輸出状況 (2020年農林水産物・食品の輸出実績、農林水産省)</p>	<p>7位 401億円 うち農産物179億円(44.7%)、林産物4億円(1%)、水産物218億円(54.3%)</p> <p>輸出額の多い品目： かつお・まぐろ類、豚の皮、いわし、さば、ソース混合調味料</p>				
<p>味覚、嗜好上の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・甘み、辛味、酸味のはっきりした味が好まれる。また、主食を食べる前にナンブラー、砂糖、唐辛子等自分好みの調味料を付け足すことが一般的である。健康志向の高まりから健康イメージのある日本食の人気が高い。 ・新しい物が好きで、新規のレストランには行列ができることがある。近年では、クロワッサン、ビタミン入り飲料、高級ゼラート等がブームとなっている。SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等で口コミ情報が伝わりやすい。 ・所得向上により食生活の多様化が進んでいる。また日本に観光する機会が増えたため、ローカライズされていない本格的な日本食を求めるタイ人も増えている。 				
<p>制度的制約</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入許可証取得の一連の手続きはタイ法人が行う。 ・牛肉は輸入可（日本からの輸入牛肉に対する月齢制限が撤廃（2016年11月））。豚肉も輸入可（2019年8月に解禁）。鶏肉は、鳥インフルエンザの発生を受けて現在も輸入禁止。 ・タイ保健省告示420号「食品の製造方法、製造におけるツール・用具及び保管」により、輸入時には当局が定める基準と同等以上の基準に基づく規格等の証明書が必要となる。これまでも類似の規制はあったが、ISO9001の適合証明書は使用できないこととなった（ISO9001の適合証明書以外、従来、適法に使用できた証明書は、概ね引続き使用可能。）また、証明書が必要な食品の範囲が、一部の青果物、冷凍水産物、畜産物等にも拡大。本格施行日は2021年10月7日。 ・野菜・果物については、植物防疫での規制及び食品衛生の規制があり、品目によって必要な対応が異なるため注意が必要である。 ・コメ、茶など一部品目に関税割当が設定されている。また、植物防疫上の理由から玄米は輸入不可（精米は植物検疫証明書の添付で輸入可）。 ・2019年1月9日から部分水素添加油脂（PHO）の規制が発動。油脂を使用した製品については、PHOを使っていない旨の製造事業者のレターが必要（日本ではPHOは規制対象でないため、新たな対応が必要）。輸入通関では、油及び油脂の製造工程を保証する確認書(Letter of Confirmation：必須)、製品規格書 (Specification：任意) 又は成分分析証明書(Certificate of Analysis：任意)の提示が求められる。 ・日本酒：日本酒を含む酒類全般（ワイン、焼酎、ビールなども）に広告規制、酒税、販売時間制限あり（なお日本酒の輸入関税は経済連携協定の適用により2012年4月以降ゼロ）。また、輸入に際しては、1銘柄につき1輸入業者のみが輸入登録を行うことが可能。 ・＜原発関連規制＞2015年5月以降、食品および農産物に対する規制は撤廃。ただし、野生動物肉（イノシシ、ヤマドリ、シカ）のみ放射性物質検査報告書や産地証明（原産地証明書）が必要。 				
<p>商流・物流・商習慣</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧正月、クリスマスに中華系を中心に、バスケット等により詰め合わせのギフトを贈る習慣がある。 ・輸入に当たっては輸入業務ライセンスが必要で、輸入許可手続きはタイに法人格がある企業のみ可能。タイ系大手小売企業は、確実に売れゆきが見込める商品以外は棚代を徴収し、売れ残りリスクをサプライヤーが負担する。棚代に20～30%を要し、輸入業者の利益を失ってしまうケースがある。加えて新規商品を棚に並べるに当たり、小売業者からエントリーフィーを求められることが多い。 ・輸入業者が卸を兼ねている場合が多い。小売、レストランへの配送のための保冷車等も保有している。 				
<p>Eコマースの概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般消費者向けECも年々拡大しており、マーケットプレイス、大手小売、食品輸入商社のECサイトで食品の取扱いあり。 				
<p>外食・小売等の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本産食品が販売される小売店は、高級デパート、日系スーパーが中心。 ・近年、FoodPanda、GrabFoodなどのスマートフォンアプリでの食品配送サービスが普及してきている。 ・新型コロナウイルス感染症の感染者数が多い時期にあつては、バンコクを含む一部地域で飲食店の店内飲食禁止（デリバリー・テイクアウト営業のみ）やアルコール飲料の提供禁止等の措置が取られており、最新の動向に注意が必要。 				
<p>日本食普及状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のように開催される日本産食品フェア、多く存在する日本食レストラン等により日本産食品への人々の認識は高く、市場としての成熟度は高い。 ・水産物：日本食レストラン（寿司店など）の増加により水産物の需要が高い。レストラン向けにマグロ、カニ、ハマチが人気である。また、タイには缶・びん詰めの主要輸出国として各国から原料用水産物（日本産ではマグロ、カツオ、サバなど）が集まる。 ・加工食品：しょう油などの調味料はタイ産、海外産の日本ブランド品があるため競合が激しい。コールドチェーンの整備に伴い日本産アイスクリームを扱う店舗が増加。 ・牛肉：ブランド和牛のほか、交雑種も流通。輸入牛肉では豪州産や米国産と競合。また、タイ国内において、欧州とタイの牛とを掛け合わせた、従来より品質が向上したタイ国産牛（タイフレンチビーフ）も出回っている。なお和牛に関しては依然として需要は高いものの、より赤みの多い牛肉を求める消費者が増えている。 ・麺文化があることからラーメンは人気がある。日本料理は寿司や刺身などのイメージが強かったが、最近ではうどんやそばの店も日本から進出している。とんかつ、お好み焼き、居酒屋料理なども人気がある。 ・富裕層を中心に本物の日本の味を求める傾向がある。訪日旅行者の増加につれてその傾向は強まっている。また、中間所得層においても日本への旅行者が増えており、日本産食品に対して好印象を持っているが、日本産の輸入商品は値段が高く、なかなか手が出せないのが現状である。 				